

ジャガイモと映画 (10)

<粉ふき (1)>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お
浅間 和夫

通常粉ふきとは、丸まま又は大きく切ったものを^{しおゆ}塩茹でした後、水気を飛ばした料理であるが、ここでは皮の有無に関係なく煮るや蒸すを含めることにした。

国内には実にたくさんの品種があるが、生食用として出回る品種の評価の基本はこれで分かる。即ち、煮ることで、煮崩れの程度や火の通りやすさがよく分り、概して蒸すことでホクホクやしっとり感、うまみ、コク、香りが分かりやすくなる。映画ではこれらまでは解り難いが、料理の基本であり、出会う機会が多いため3回にわけて紹介する。

39 『初恋』(原題：チョッサラン)

1996年、韓国テレビドラマ。脚本：チョソヘ、演出：イ・ウンジン、キム・ジョンチャン。

激動の時代を背景に、家族の絆、貧富の差、若者たちの夢と野望、そして切ない初恋を描いた人気のドラマである。

第一話は1975年。映画館の看板画家をするドッペ一家が引っ越しすることになる。一家の母親は早くに亡くなっていた。絵を描くのが好きな長男のチャニョク、成績優秀な次男のチャヌ、亡き母の代わりに家事をこなす姉のチャノクの4人家族は父の仕事の関係で地方都市の春川(チュンチョン)

に移り住む。チャヌは父が働く映画館を持つ実業家の娘ヒョギョンを一目で好きになり、ヒョギョンのほうもチャニョクの絵の才能に惹かれてゆく。

そんなある日、姉のチャノクがたくさんのジャガイモをふかしているシーンに出会う(写真1)。



写真1 ジャガイモ好きの家族

「これ お父さんの映画館で食べるの」と。多分顔パスで入り、映画を見ながらお八つにする作戦らしい。それにしても結構の量であった。

なお、第二話は5年後に跳び、高校生に成長してからの話。チャニョクはヒョギョンとの初恋を育みながら美大への進学を夢見るが、貧しい一家の長男という責任が重くのしかかる。一方、ヒョギョンへの想いを胸に秘めたチャヌは経済的な事情から大

学進学をあきらめ、不良仲間とつるんでいた。そんな中、ヒョギョンの父がチャニョクとの交際を知り、卑劣な手段を使って二人を引き裂いてしまう…。恋の前に立ちほだかる貧富の差、若者たちの夢と野望を描いて、以下50話ほど続くことになる。

40 『私のオオカミ少年』

(英題：A Werewolf Boy)

2012年、韓国映画。監督：チョ・ソンヒ。

韓国発のラブストーリーであり、主役の少年を演ずるソン・ジュンギは日本でも知る人ぞ知る人である。

ソウルの田舎に、肺を患っている長女スニ（パク・ボヨン）の病気療養も兼ねて一家3人が引っ越してくる。そこは御近所さんはたった一軒という寒村で、しかも、かつてオオカミを使った謎の実験が行われていたというワケありの屋敷である。ある日物陰から身を隠すようにして自分を見つめる謎めいた少年（ソン・ジュンギ）を見つける。少年はスニ家族が近所の人からもらった茹でたジャガイモ（写真2）を手づかみで食べるように食べる。



写真2 お八つのジャガイモを蒸かす

家族は、言葉を理解することができず、まるでオオカミのように振る舞う少年にチョルスと名付け、居候させることにする。スニは、茹でたジャガイモを片手にして調教を始める。食事の仕方、洋服の着方、文字の読み書きと、生活に必要なことを教えていく。その間に塞ぎがちだったスニの心が開いていき、一方の少年チョルスも、誰かを愛するという生まれて初めての感情に戸惑う。

ところが、スニに想いを寄せる大家の息子ジテがおり、ある晩、ヤギ農場の柵を壊わしてしまう。それをチョルスになすりつけようとするが、嘘の証言がばれたジテは逆上して、ヤギ農場主のチョンを殺してしまう。スニに対しても暴言を繰り返し、足蹴りをする。そのスニを守るためにチョルスはジテを噛み殺してしまう。このままでは、チョルスが村人によって殺される恐れがある。チョルスはスニを抱え、森に逃げ込む。スニはチョルスが化物物であっても、ただ一緒にいらればいい、と願う。しかし、チョルスを殺そうと警察や村人が迫ってくる。スニはチョルスを助けるために別れることを決意し、森を去る。

それから47年後。スニ（イ・ヨンラン）名義の家を売るか否かの決断を迫られ、一晚、この家で過ごすことになる。雪が降る中、納屋に明かりが灯っていることに気づく。その扉を開けてみると、なんとそこに懐かしいチョルスの笑顔があった。スニをずっと待っていたのだった。

41 『テス』（原題：Tess）

1979年、フランス・イギリス映画。監督：ロマン・ポランスキー。

原作はトーマス・ハーディの『ダーバヴィル家のテス』。

時は19世紀の末、話はイギリスの東北部にある村マーロットから始まる。ある日突然、貧しい男が、牧師から君の家系が伯爵家だと教わる。それを聞いた夫婦が有頂天となるシーンのとき、部屋の片隅にジャガイモやリンゴがコロコロ見えた。美しい少女テス（ナスターシャ・キンスキー）は、近くに住む金持ちの家であるダーバヴィル家に親戚と名乗り、援助を頼みに行かせる。テスはダーバヴィル家所有の農場に奉公に行くことになるが、祭りの夜、女主人のろくでなし息子アレックに犯され、情婦にされてしまう。テスは農場を出て行き、戻った実家で子供を産む。子供はすぐに死んでしまい、テスはまた別の遠い農場に奉公に行く。

その農場には、牧師の息子だが農場主を目指しているエンジェル（ピーター・ファース）という青年がいた。テスとエンジェルは恋に落ち、テスとの結婚許可を得るため両親の家に行くが、その時の食事にマッシュ・ポテトが見えた。テスは自分の過去を告白できないまま、彼との結婚式を迎え、ハネムーンとして行く別荘の夜、とうとうテスはエンジェルに過去を告白するが、エンジェルはテスを許せずに出て行ってしまう。その夜別荘には粉ふきジャガイモが山盛りに用意されていた（写真3）。

テスが寂しく歩いて実家にたどり着いた



写真3 粉ふきイモの山

時はポテトスープが出た。雪が見られる時期、早速テンサイ（甜菜、別名サトウダコン、ビート）の手作業収穫に働いたりするが、父親が死に、一家は困窮を極め、家賃の滞納で家を追い出され、ダーバヴィル家縁の地へ移り、アレックからの援助を受け、再び情婦として暮らし始める。

時が流れ、エンジェルはブラジルから戻り、テスに対する厳しい仕打ちを後悔し、彼女を迎えに行く。しかし、テスは彼を追い返すことしか出来ない。だがアレックの言葉に激昂したテスはアレックを刺し、二人は愛の逃避行となるが、追ってきた騎馬警官に捕まってしまう。そして、テスは絞首刑に処され、この世を去ることとなる。以上、筆力が劣るものがストーリーを書くと詰まらなくなるが、筆者にとってはジャガイモを何度も拝める名作であった。